

所 信

副理事長 東橋 達矢

時代の最先端を走り、チャレンジし続けてきた（一社）刈谷青年会議所が、より価値のある魅力的な団体として活動していくためには、私たちメンバーが地域のリーダーに相応しい人財として成長することが必要です。

NO ATTACK NO CHANCE～希望に満ちたKARIYAのまちへ～という野々山理事長が掲げるこのスローガンこそが2019年度（一社）刈谷青年会議所の活動を支える指針であり、他の団体には真似することのできない新しい発想、スケールの大きい事業を展開していくことが私たちに求められていると考えています。私自身、2011年に青年会議所に入会し、未知の経験を数多くし、活動する中で多くの仲間に出会いました。その中で特に印象深かったことは、自分の限界にチャレンジし、苦しみながらも仲間と共に乗り越えてきた経験です。その経験を次代を担うメンバーに伝えると共に、私自身、新たな経験をすることによって成長をして参ります。また、世界との垣根が低くなってきている現代において世界に通用する真のリーダーを育成すると共に、この価値のある活動に共感する新たなメンバーを一人でも多く募ることが大切です。現メンバーが何故、青年会議所の門を叩いたのか、入会当時の想いを今一度振り返り、その熱い想いを入会候補者に伝えていくのです。そして、副理事長として理事長を補佐し、理事長が掲げる理想の実現を最大限サポートしていく所存です。

結びになりますが、本年度、私にとっては青年会議所活動の集大成となる最後の1年となります。今までの経験を存分に活かし、全力で駆け抜けて参りますので1年間よろしくお願い致します。